

裾野麗峰山の会・山行報告書		文・加藤	写真・後藤
山行番.	NO. 2023-2		
日 時	2023 年 06 月 07 日 (水) 無風・晴・涼しい		
山 域	奥羽山脈・焼石岳 (1547m・日本二百名山・花の百名山)		
コース	ツブ沼登山口 6:40-岳山下-石沼 8:21-上沼・中沼分岐 9:04-銀明水避難小屋 9:27- 泉水沼 10:47-焼石岳 11:08~28-泉水沼-銀名水-石沼-駐車場 15:22		
標高差	上・下り ツブ沼駐車場約 425m~焼石岳 1547m=約 1122m		
難易度	非常に困難	困難	やや困難 レ普通 やや易しい 易しい
延々と続く、百花繚乱の山			
参加者	後藤、加藤=2名		

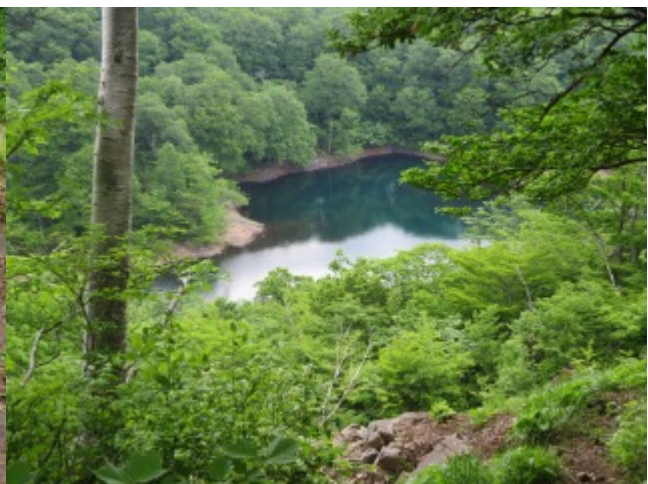
岩手県と秋田県の県境の山。季節折々の花の名山。東北中部の山が全て望める山頂。「此処に行こう」と話が出てから 3 年が過ぎた。憧れて、憧れて、何度一人でも行こうと思った事か・・・。

それが今年、突然話が再浮上し、実行日の 2・3 日前に行く事が決定。「わぁ～お！」である。朝 4 時起床。5 時出発。

車中で登山口はツブ沼にするか、中沼にするか迷った。と言うのも前日、仙台の「泉ヶ岳 (1175m)」に上り、結構足腰に疲れがあり、距離の短い (往復約 2H 短縮) 中沼の方がいいかなという CL の迷いがあった。



登山口



ツブ沼俯瞰

「迷う時は、最初の計画通りツブ沼にした方が悔いは残らないよ」の私の一言で、登山口は決まった。本当は、私も昨日の疲れが大分あり、短いコースの中沼が良かったが、CL に悔いを残させない為の見栄を張ってしまった。

標高 425m のツブ沼キャンプ場登山口に到着。駐車場は 40 台程のスペースがあり、立派なトイレもある。空気がひんやりと冷たい。



リュウキンカ（立金花）

天気は良さそうだ。「晴女（はれじょ）」の私がいるから絶対大丈夫だと、自分で確信し傘は置いて行く事にした。R397を渡り対岸の階段にとりつく。

20段程で緩やかな背の高いブナの道となり、頭上で小鳥の囀りが聞こえる。とりわけ変化のない道で、所々沼地みたいな個所もあるがそれ程気にならない。

1000mを越える辺りから、「はるぜみ」の大合唱が聞こえ始めた。今年初である。最初、「初鳴きだね」と喜んで聞いていたが、「少し静かにしてよね」と段々と煩く感じるようになってしまった。

ぬかるんだ両脇に、水芭蕉がつんつく、つんつく白い花を咲かせている。鮮やかな黄花のリュウキンカも顔を出し始めた。白い可憐なサンカヨウ、濃いピンクのアケボノツツジ、私の大好きなコシアブラがそこかしこ。石沼を遙か眼下に通り過ぎ、中沼の分岐を見過ごし、銀名水まで重い身体を持ち上げた。

山肌からコンコンと湧き出る水は冷たくて美味しい。半分に減ったボトルに水を継ぎ足し少しの休憩で出発。此处から上は急な斜面に雪が残りつぽ足登行だ。足を蹴る。ガツ。ガツ。「あれっ？」つるりんこんと時々滑る。

雪溪歩きは上手かったはずなのに～！何故なんだ～？この時私は知ってしまった。歩きが問題ではなく、靴がハイキングシューズでソールが硬くないので滑るのだと。今まで冬靴でソールが硬いので、雪溪にガッチリ食い込むので滑らず、それを上手い歩き方と勘違いをしていたのだ。



中沼分岐



銀名水



銀名水上

しっかり自己反省をしました。

つるりんこんと滑りながらも、それを乗り越えた所が雪解けの湿地帯。足元に超可憐な、今回どうしても見たかった「ヒナザクラ」が一面に咲いていた。

5センチに満たない？筒状で中の芯が黄色く膝を折って屈まないと良く観察できない。あまりに小さくて圧巻とはいえないが、初めて見たヒナザクラに「こんにちわ」の挨拶。幾度か小雪溪を渡り、ミネザクラが現れる頃になると、道の両脇にロープが張られ、緩やかな低木帯の中のゴーロ歩きに変わる。



ヒナザクラ（雛桜）



やがてハクサンイチゲが今真っ盛りのお花畑、ミヤマシオガマ、びっしり生えた笹の中には行者ニンニク。正面には堂々と焼石岳が・・・。

「わぁ～お！ 凄いね！今が一番良い季節だね。来て良かったね！ やったね！」喜びと嬉しさで自然と顔がほころび言葉も弾む。

何人かとお会いながら姥石平分岐を過ぎ、湖面が半分雪に埋まった泉水沼から焼石岳にとりつく。茶色くガレた急な坂道を、くっくっとして最後の力を振り絞って登ると20分もかからず山頂に到着。山頂には誰もいない。360度の展望は欲しいままだ。素晴らしい！昼食で腹ごしらえをして下山。



姥平手前



泉水沼



山頂



キジムシロ?、ミヤマキンポウゲ?



下山



ユキワリコサクラ (雪割小桜)

下りは早い。直ぐに姥石平分岐に戻る。
出会った人は、焼石に登らず、東焼石に続く広大な草原地帯に入っていくので、戻ってきた人に聞いてみた。

東焼石に続く道はお花畑が広がる花の宝庫のコースだとか。残念だ！次回は何時になるのか、これが最後かわからないが、この次は姥石岳から周回コースを辿りたい。後ろ髪を引かれたが踵を返してきた道を引き返す。



ハクサンイチゲ（白山一華）



シラネアオイ（白根葵）

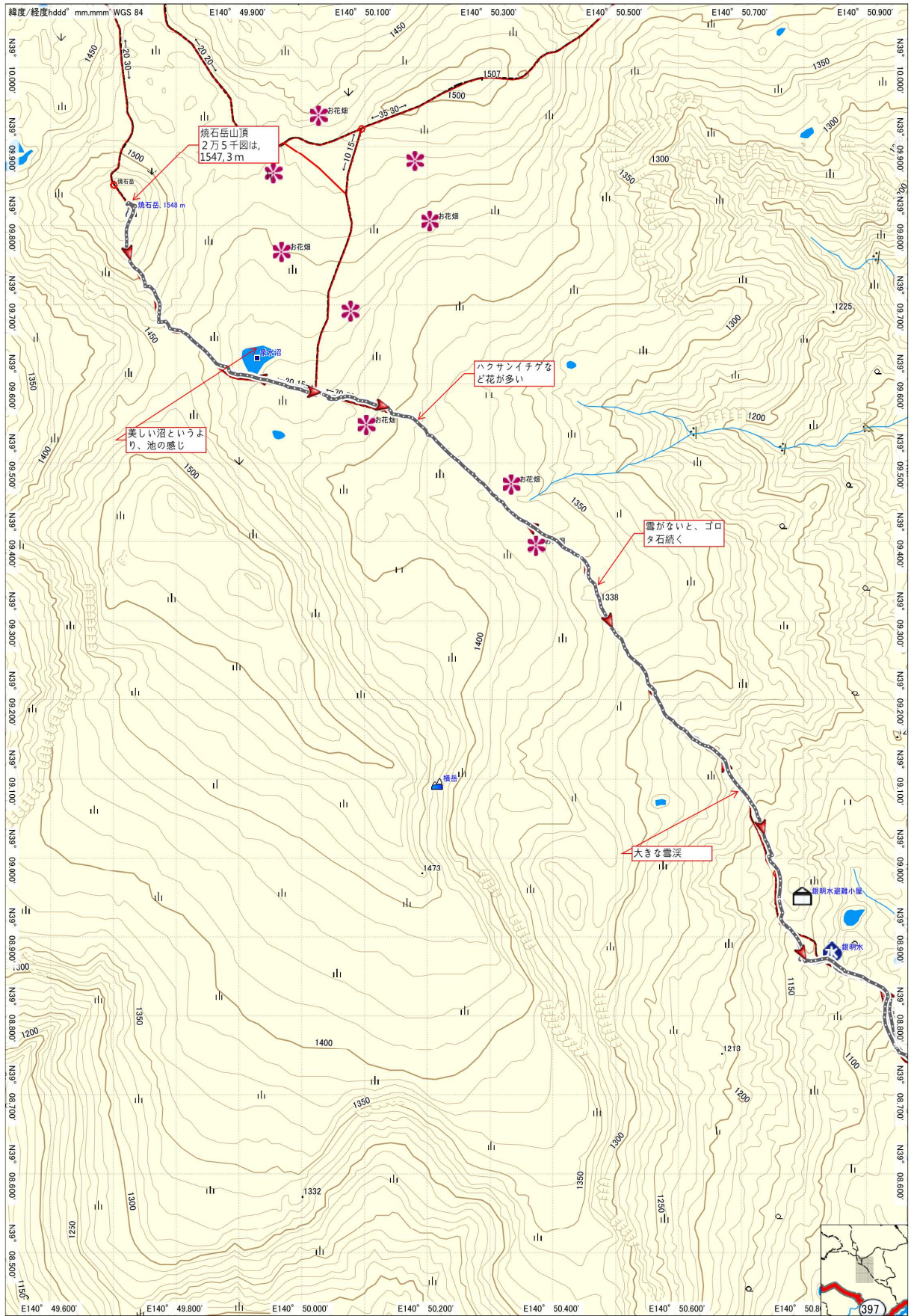


銀名水避難小屋

下りは露岩帯の足場や、雪渓、濡れた木道、ぬかるみ等は注意して歩き、それでも私は濡れた木道で1回スッテンころりんと滑りズボンとシャツが濡れて肌までしみた。下りは早い！と思いつつも長い。

R397が見えホッと安堵する。「お疲れ様でした」CLの新しい車が、文句も言わず、愚痴もこぼさず、ひっそりと待っていてくれた。

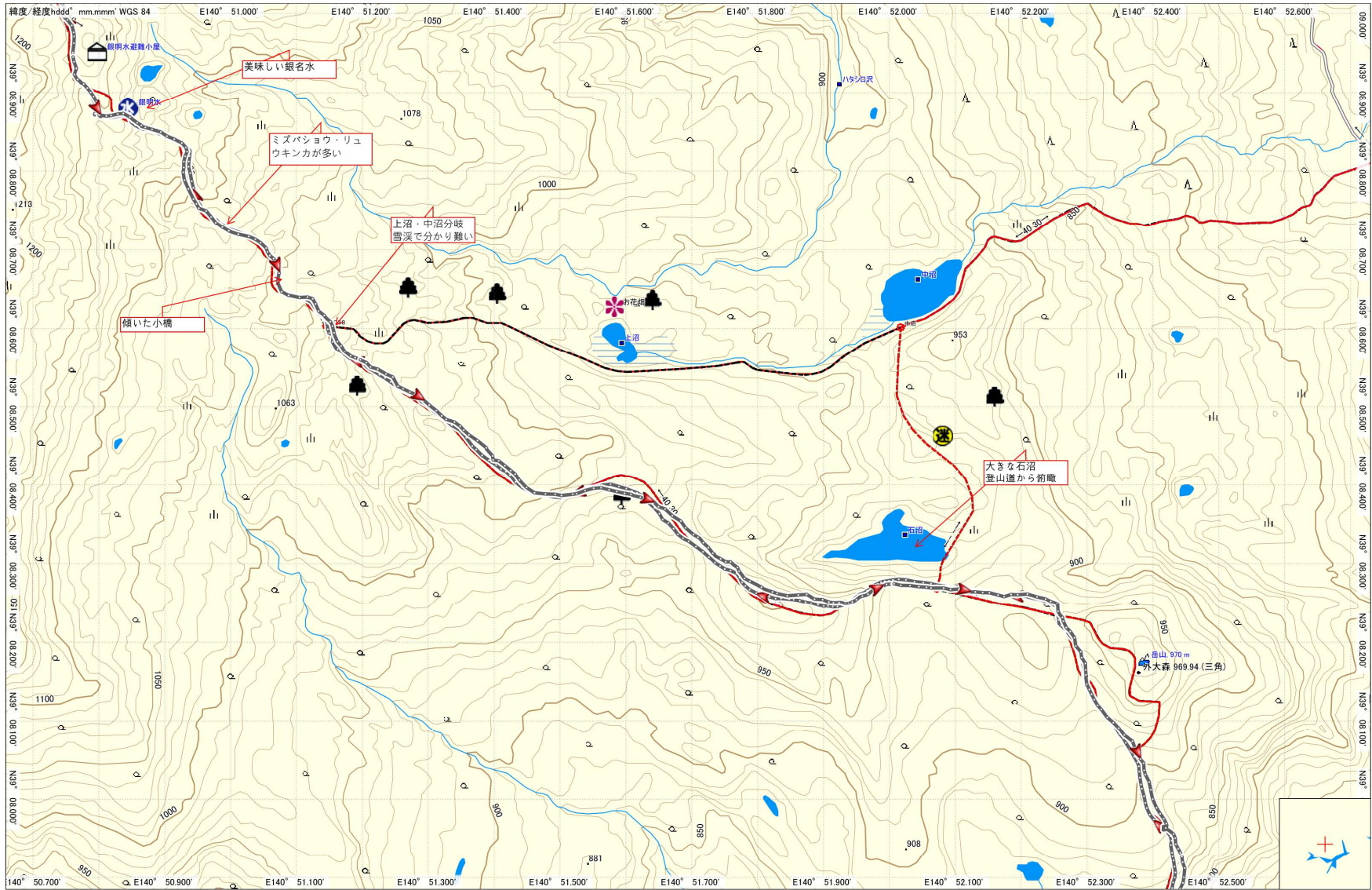
「有難う」と感謝の気持ちで「カチッ」とロックを解除する。今日も長い長い一日が無事終わった。



Japan Topo 10M Plus V3
 Copyright © 2014 Garmin Corporation 1995-2014

2023/06/10 17:01:36

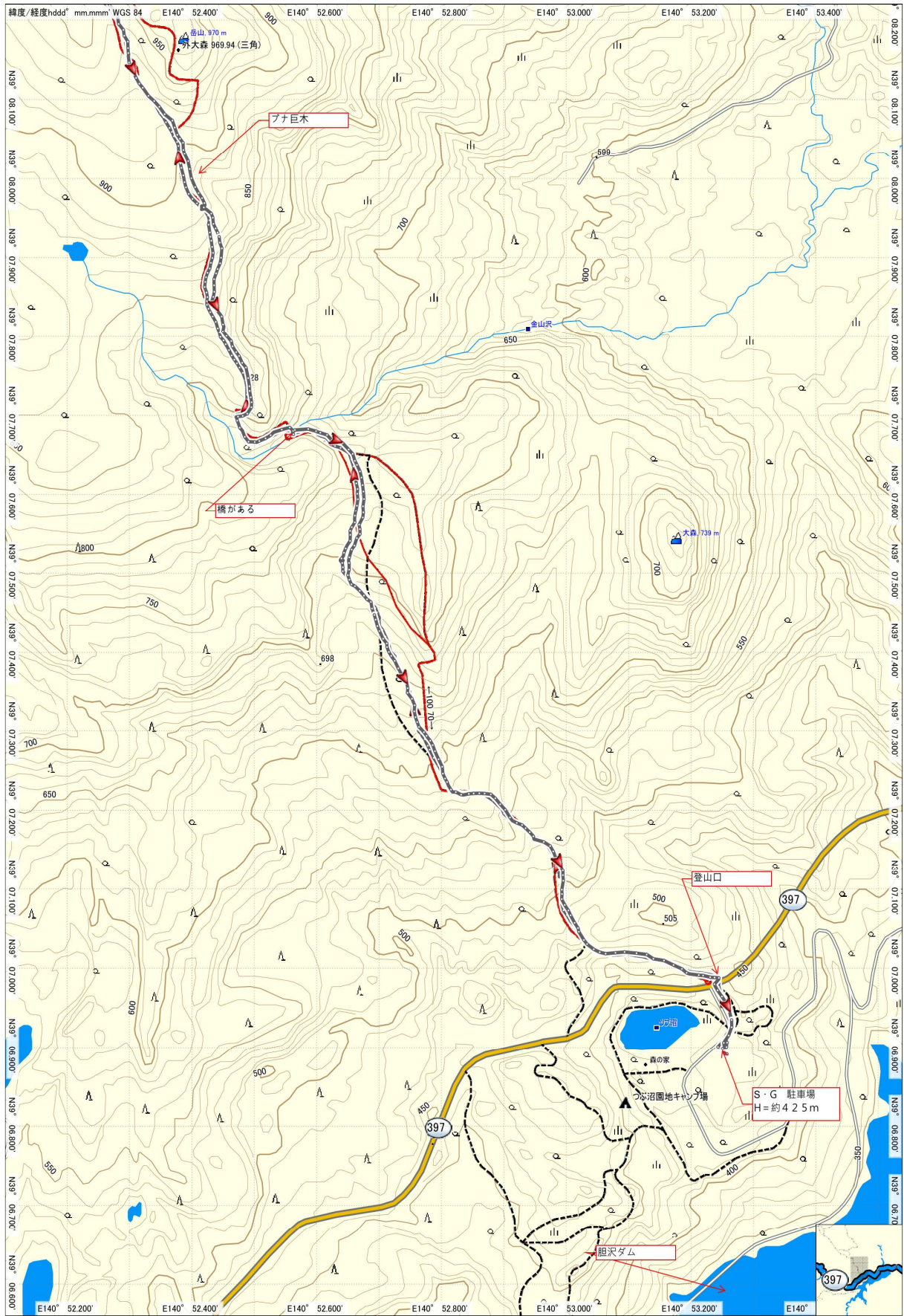
GARMIN



Japan Topo 10M Plus V3
 © Garmin/DeLorme Co., Ltd. 2014
 Garmin Corporation 1995-2014

2023/06/10 17:01:36

GARMIN



Japan Topo 10M Plus V3
 DeLorme/Mapbox Co., Ltd 2014
 Garmin Corporation 1995-2014

2023/06/10 17:01:36

GARMIN



姥平（正面が焼石岳）



泉水沼